

サイクリングブランド「ビワイチ」による地域振興について

(これまでのビワイチ推進の取組と今後の方向性)



BIWAICHI
ビワイチ

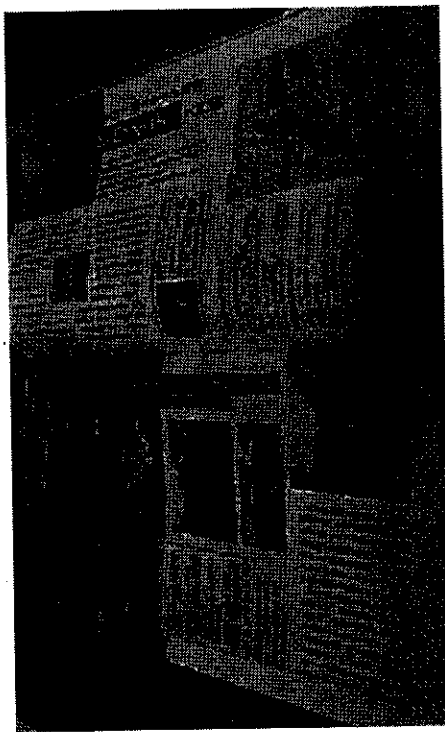
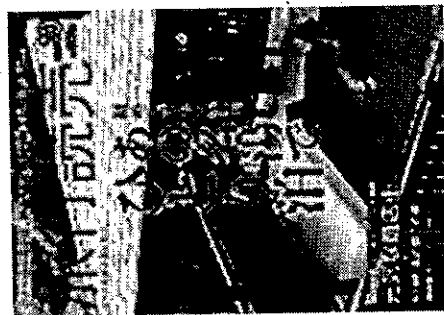
1. 徹底した情報発信



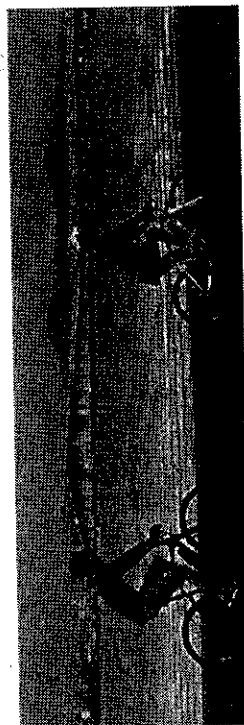
県内各地にある多様な資源を活かし、ビワイチをはじめとした自転車による周遊観光の魅力
発信を様々な媒体を通じて行うことで、国内外からの来訪促進を図る



自転車専門誌との連携による発信



総合旅行雑誌での特集記事 掲載



自転車製造メーカーHP「サイクリストに愛される日本全国
のおすすめロード」として掲載される



自転車で県内を巡る
旅番組制作

海外からの視察
(欧州サイクリスト連盟理事長等)

2. ビワイチ推進総合ビジョンの策定による「理想の共有」



自転車の活用推進による地域活性化に向けて、様々な主体が一体となって取り組みを進める道標とするため、「理想とする「ビワイチ」物語」をまとめた「ビワイチ推進総合ビジョン（平成30年3月）」を策定

目指す姿

観光客を含むサイクリスト、自動車運転者、歩行者等が互いに尊重し合い、共存する環境の中、国内外から多くの方々が来訪し、安全で快適に自転車による県内周遊（「ビワイチ」「ビワイチ・プラス」）を楽しんでいるとともに、地域の豊かな自然や文化、食、人とのふれあいを通じて県全体が活性化され、県民自身も自転車で県内周遊を楽しんでいる

本ビジョンで「ビワイチ」の魅力や地域振興等に向けた可能性を描いた「理想とする「ビワイチ」物語」

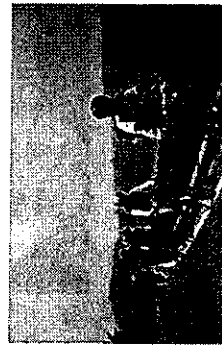
（県外の人）

- ・「ビワイチ」の受入体制が充実し、繰り返し「ビワイチ」を楽しんでいる。
- ・湖畔では様々な人が快適に「ビワイチ」を楽しんでいる。光景が広がっている。
- ・当たりまえのルールとマナーが浸透し、飲食店や宿泊施設などでサイクリスト向けのサービスが充実していることを実感する。
- ・県内の様々な立寄スポットに魅了されるとともに、地元の方との会話も弾み、滋賀の魅力や琵琶湖の素晴らしさを肌で感じる。

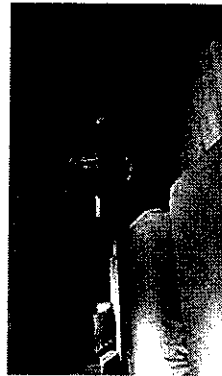
（県内の人）

- ・自転車を利用する機会が増え、今では古い町並みや里山を巡るようになった。
- ・トラブルに対するレスキュー体制や公共交通機関との連携が図られ、誰もが安心して楽しめる。
- ・地元で開催されるサイクリングイベントに地元の人が多く参加し、親子連れで自転車を楽しむ人が増えている。
- ・「ビワイチ」「ビワイチ・プラス」を通じて、健康増進につながるとともに、琵琶湖への感謝の気持ちが高まっている。

（ストーリーの中で紹介しているイメージ写真）



繰り返し、ビワイチを楽しむ国内外の人々



サイクリスト向けサービスの充実



自転車散策による地域の魅力発見



サイクリングを楽しむ地元の人々

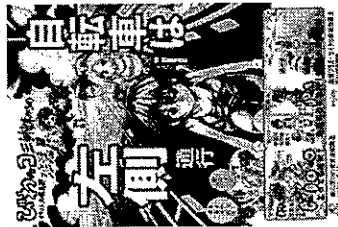
3. ブランドイメージを裏切らない環境整備の推進①



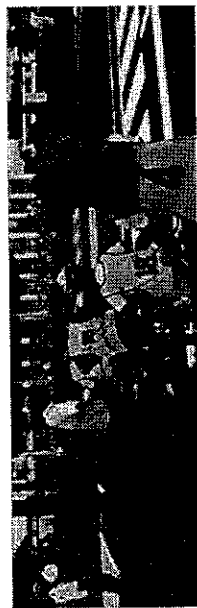
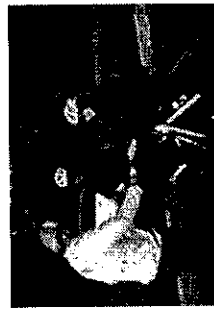
「ビワイチ」をはじめ、内陸部へ県内各地を周遊する「ビワイチ・プラス」を安心・安全に楽しめるコンテンツとして確立させるため、自転車走行空間の確保、ルール・マナー遵守に向けた取組、スマートフォンプリやサイクリングマップ等を活用したルート案内など安全かつ気軽にサイクリングを楽しめる環境づくりを行う。

○自転車の安全利用に向けた取組

(自転車保険義務化やルール・マナーの確認周知に向けたポスター・チラシ・冊子作成・配布
自転車利用者への安全指導、合同交通事故防止啓発の実施)



自転車利用者への
安全指導



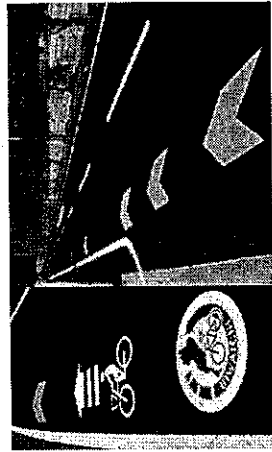
自転車の左側通行周知に
向けたポスター、保護者向け冊子の作成



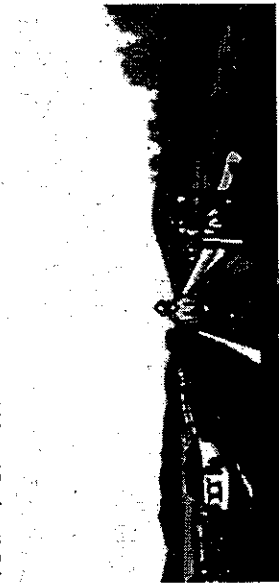
木之本署、伊香交通安全協会と
の合同交通事故防止啓発の実施

○自転車走行空間の確保

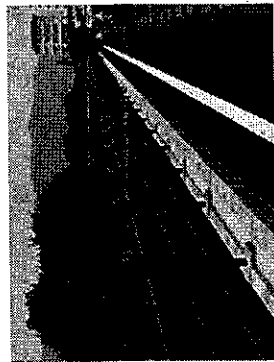
(矢羽根による路面標示と案内整備、走行空間整備、コースの維持管理(除草))



矢羽根、ロゴマークの整備



自転車の走行空間整備(植樹帯撤去→自転車誘導路)



3. ブランドイメージを裏切らない環境整備の推進②



- サイクリングコース「ぐるっとびわ湖サイクルライン(193km)」、「ビワイチ・プラス」選定
- 『びわ湖周遊サイクリングマップ』の作成・配布
- 「ビワイチ」を楽しむサイクリング専用アプリ『BIWAICHI Cycling Navi』のリリース

ぐるっとびわ湖サイクリングマップ

日本語版

「ビワイチ」をはじめ、お薦めのサイクリングコース、サポートステーションの位置、周辺施設やルール、マナー、湖上交通によるショートカット、自転車に乗る際に必要な保険などの情報を掲載しています。

ENGLISH

Useful information is available, including Biwaichi (Lake Biwa Round Trip), recommended cycling courses, support station locations, basic knowledge, rules and manners for cycling, shortcuts via over-the-lake access, and necessary insurance for riding a bicycle.

中国語版

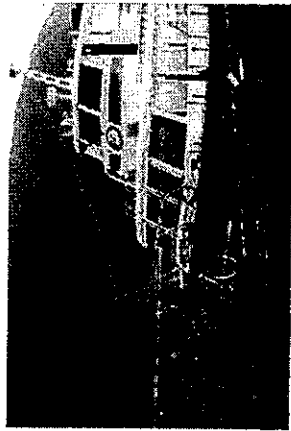
登載有「環湖琵琶湖一周」等推薦騎行路線、服務站的位置、基礎知識及規則禮儀、利用湖上交通的捷徑、騎自行車時所需的保險等資訊。

『ぐるっとびわ湖サイクリングマップ』の作成・配布(多言語対応)
内地を周遊する「ビワイチ・プラス」8ルート新たに設定

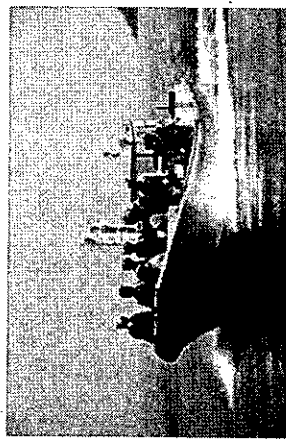
○びわ湖一周レンタサイクル施設(米原駅)整備 ○湖上交通を活用したショートカットビワイチの提案



米原駅サイクルステーション(東口・近江鉄道入り口)



オーミマリン マキノ港～彦根港間



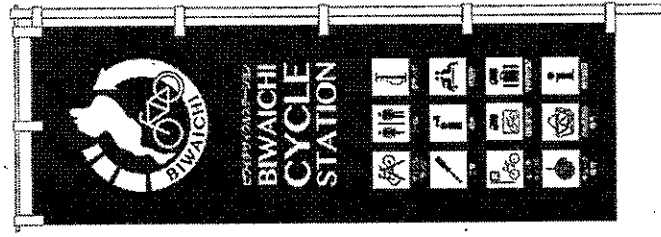
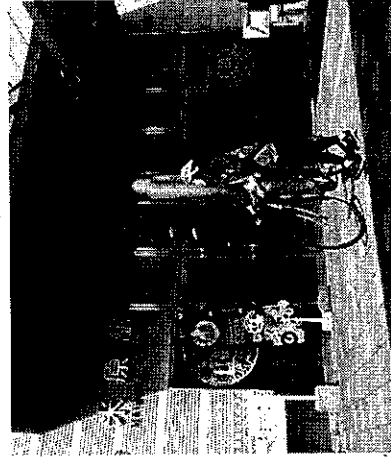
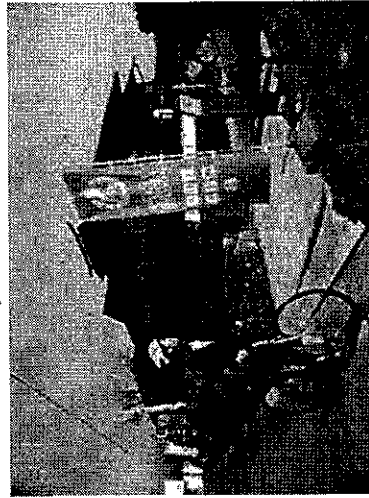
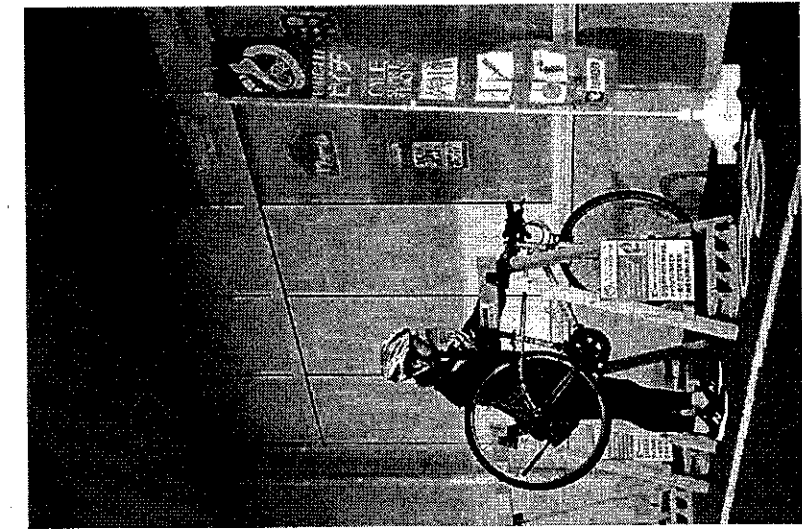
守山市 漁船タクシー

4. 企業参入・企業連携の推進①



○サイクルサポートステーションへの登録

平成28年から募集開始し、200箇所までは公費で整備。それ以降、事業者負担に切り替えたが、今でも登録事業者は増加。



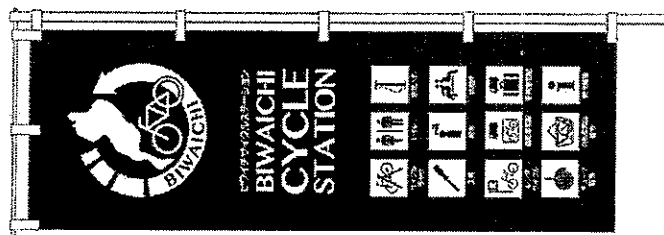
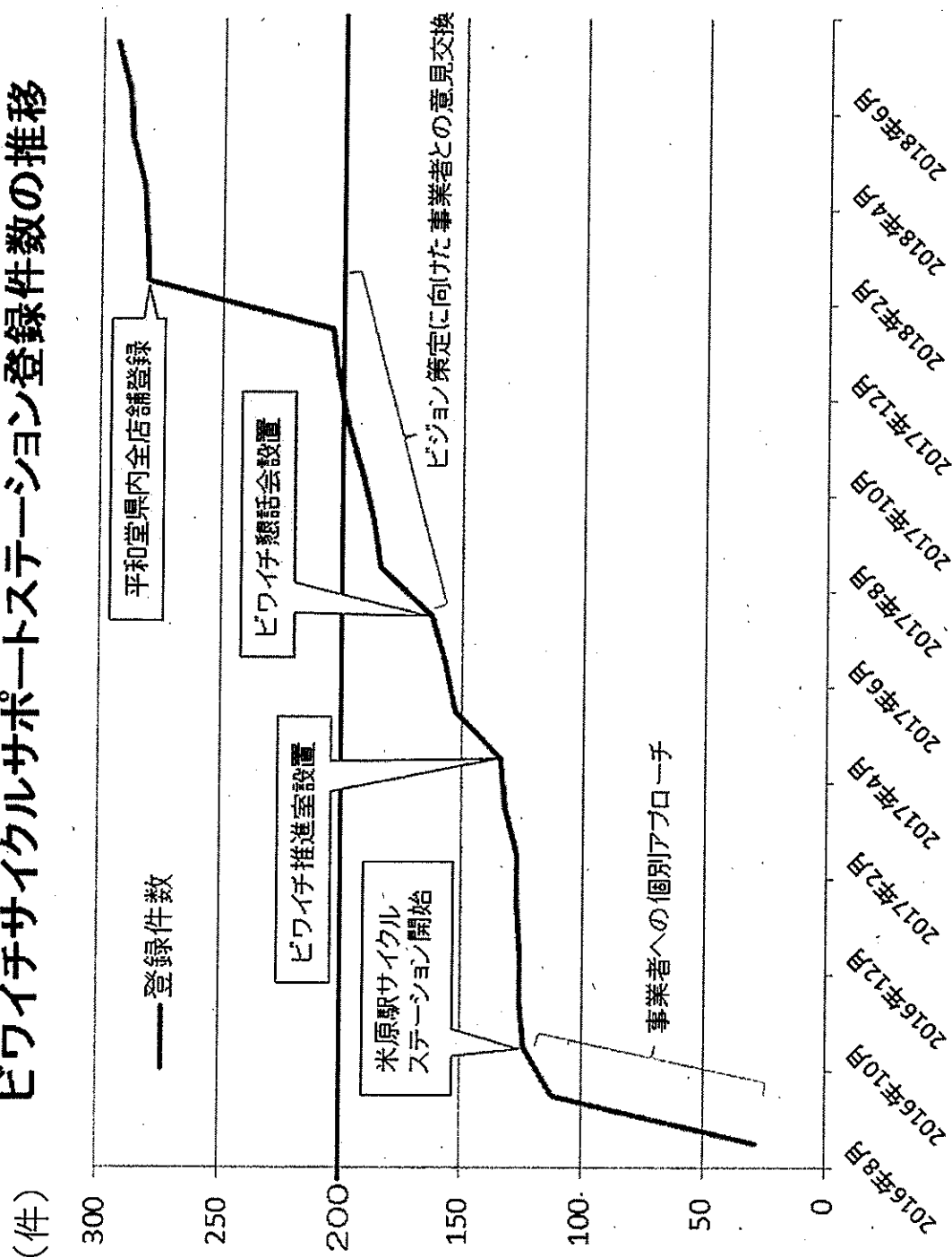
空気ポンプや自転車用工具の貸出しをはじめとしたサービス等を提供するサイクルサポートステーションの広が

4. 企業参入・企業連携の推進①



BIWAICHI
ビワイチ

ビワイチサイクルサポートステーション登録件数の推移



4. 企業参入・企業連携の推進②

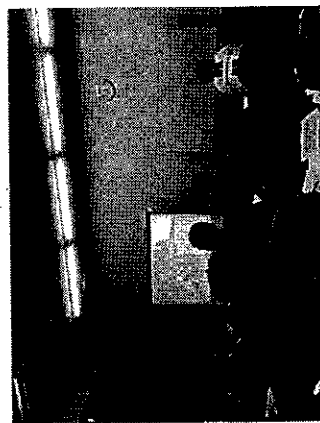


○ セミナー、勉強会の開催

平成27年より、ツアーガイドの育成・サポートステーションの水準向上説明会の開催を開始。知識向上できる機会を創出するとともに、参加者同士が情報交換を行い、連携することで生まれる相乗効果を図り、受入体制を整備していく。

(1) 「ビワイチ」ツアーガイド養成研修会

- ・ 座学の他、実務研修を含む具体的な技術研修
- ・ 研修会の場でツアーガイドの相互連携も醸成



(2) サイクルサポートステーション講習会

- ・ 基礎編と応用編の2つに分けて、其々のニーズに応じて実施
- ・ 基礎編では、「サイクリストとは？」「スポーツバイクの構造」等を説明。
- ・ 応用編では、「サイクリングでいかに稼ぐか」など先進地事例も交えて説明

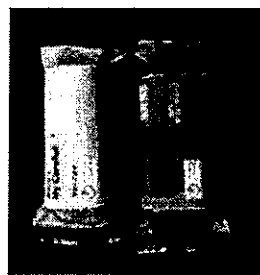


4. 企業参入・企業連携の推進③

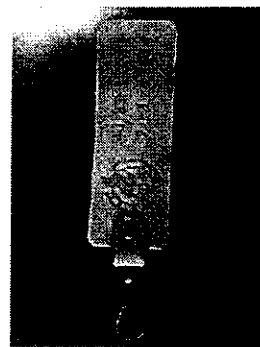


○「ビワイチ」ロゴマークの活用

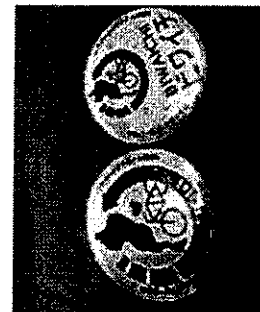
歴史・文化・自然など滋賀の多彩な魅力を体感・体験するサイクルツーリズムを推進していくための旗印としてビワイチロゴマークを定め、事業者等に対して、「ビワイチ」を活かしたグッズの開発・販売等を推進。平成29年から募集開始し、これまでに32事例(うちグッズ24)



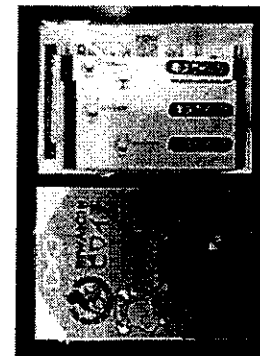
ビワイチマフリン



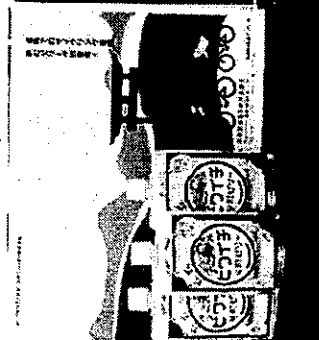
ビワイチキーホルダー



ビワイチバッジ



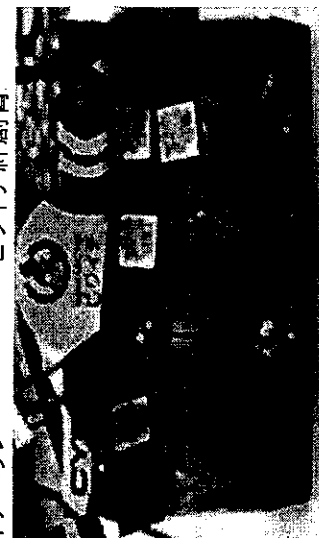
ビワイチ絆創膏



ビワイチゼリー



ビワイチMEMOノート



ビワイチサイクルチューブ



ビワイチTシャツ



ビワイチトートバッグ



4. 企業参入・企業連携の推進④

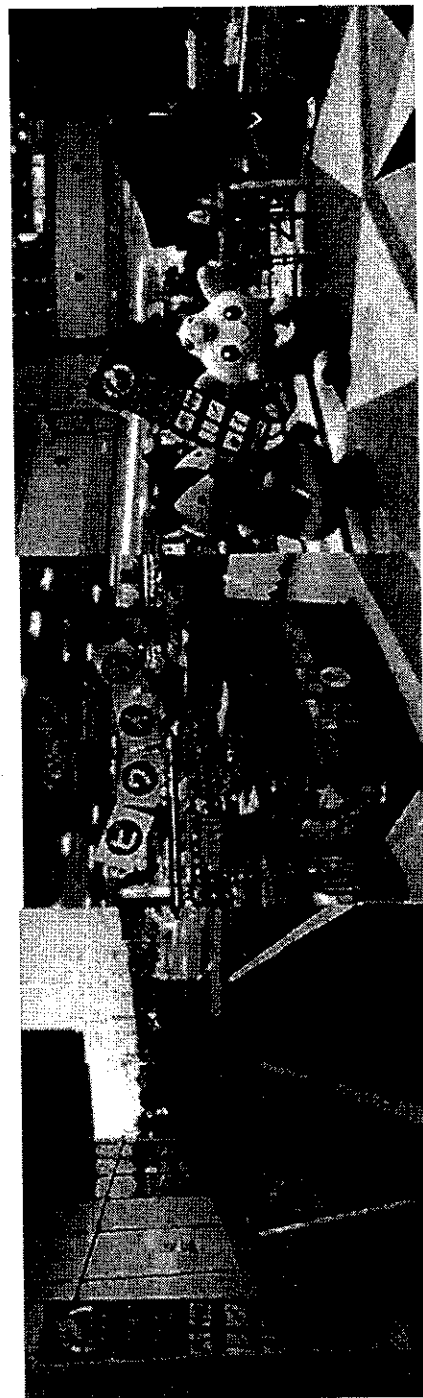


○企業連携のコーディネート

各企業とのコラボレーションにより、「びわいち」を盛り上げる企業協賛を進めることで、民間事業者がサイクリングブランド「びわいち」を活かして「稼ぎ」、地域活性化につながる取組を目指す。



キリンビール、大塚製薬：店頭キャンペーン～商品拡販



平和堂×サントリー：「びわいち」で誘客

4. 企業参入・企業連携の推進⑤



○サイクリストの「立ち寄り」推進による消費支出の拡大

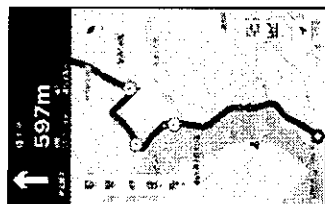
観光スポットや飲食店等の「立ち寄りスポット」情報を紹介し、県内周遊を気軽に楽しんでもらうサイクリング専用アプリの開発や宿泊施設や観光施設等でサイクリスト向けサービスを充実させ、サイクリストが「立ち寄りやすい」環境を整えることで、滞在時間を増やし、消費支出を拡大させていく。



立ち寄りスポット
一覧画面



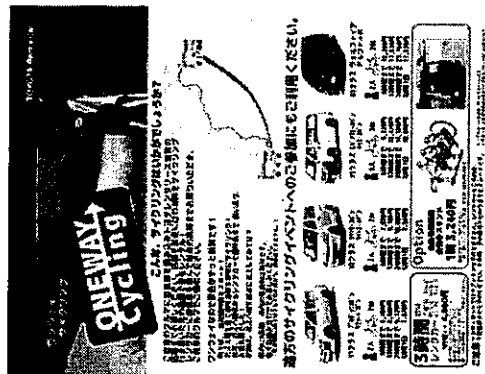
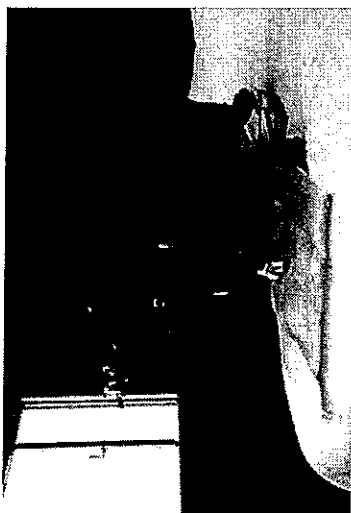
おすすめスポット
詳細画面



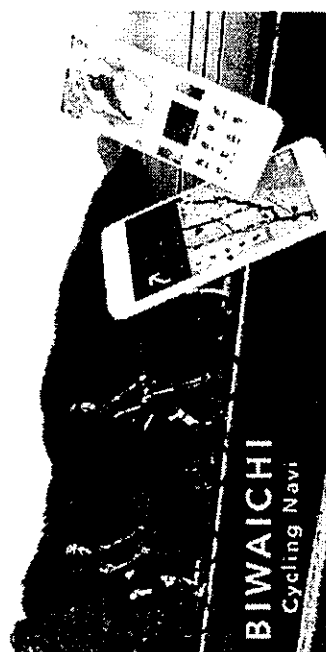
ナビゲーション
画面



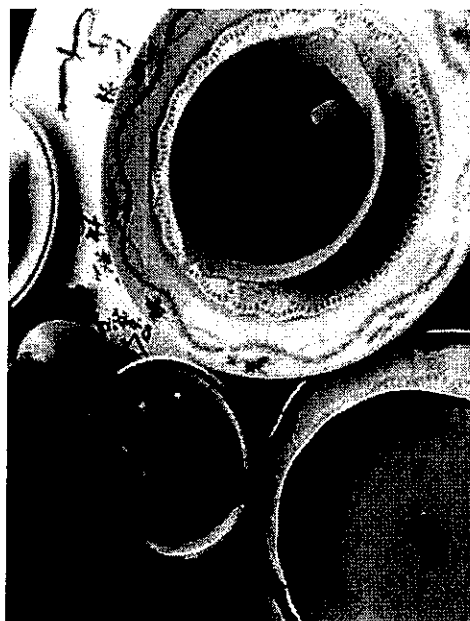
サイクリスト向け宿泊プラン



サイクリスト向けレンタカープラン



アプリを活用した周辺施設情報の発信



サイクリスト向けレストランメニュー

4. 企業参入・企業連携の推進⑥



○事業者によるツアー一造成促進

サイクリングを組み込んだ旅行商品の開発を促進させ、ターゲットに応じたツアー一造成等を行うこととで、国内外に対する「ビワイチ」による観光誘客を行う。

ビワイチサイクリングツアー

出発日
8月26日
9月15日
10月20日

お申し込み

※全行程ガイド付きです。
※ワゴン車・バス等利用します。
※お申し込みの人数が、定員に達しない場合は、催行料を調整します。
※お申し込みの人数が、定員に達しない場合は、催行料を調整します。
※お申し込みの人数が、定員に達しない場合は、催行料を調整します。



エイドステーション



安全管理



手荷物運搬

ビワイチサイクリングツアー

初心者でも安心完全フルサポート

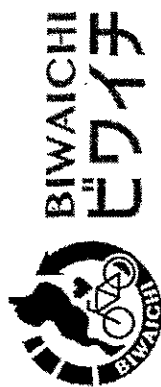
お申し込み

※全行程ガイド付きです。
※ワゴン車・バス等利用します。
※お申し込みの人数が、定員に達しない場合は、催行料を調整します。
※お申し込みの人数が、定員に達しない場合は、催行料を調整します。
※お申し込みの人数が、定員に達しない場合は、催行料を調整します。

国内外サイクリスト向けツアーの開発(日帰り・宿泊)

きめ細やかなサポート体制

5. ブランドイメージの「広がり」を構築①



○「ビワイチ・プラス」による内陸部への誘客

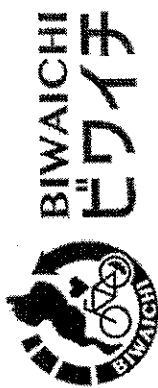
県内にはびわ湖沿いの「ビワイチ」コース以外にも数多くある魅力的なスポットをつないで、内陸部を周遊するサイクリングコースを「ビワイチ・プラス」として発信し、自然、文化、食など県内にある様々な魅力や人とのふれあいを通じて、地域の魅力に触れ、県全体がサイクリングで盛り上がることを目指す。

現在設定している「ビワイチ・プラス」サイクリングコース(8コース)

- ・ 日本遺産を気軽に楽しむミニコース「大津・歴史遺産をめぐる道」
(初級:12.2km)
- ・ 朝宮の茶畑を巡る「唐橋と信楽の周回コース」
(中級:52.2km)
- ・ 古道をゆく「矢橋道と志那街道」
(中級:46.4km)
- ・ 古道をゆく「東海道と杣街道～甲賀をめぐる二つの街道」
(中級:58.9km)
- ・ 歴史遺産の道「特別史跡を行く～安土城跡と彦根城跡」
(中級:51.9km)
- ・ 古道をゆく「中山道と北国協往還」
(中級:53.2km)
- ・ サイクルトレイン「近江鉄道で行こう！」
(上級:71.9km)
- ・ 自然が育む湖西の文化探訪「メタセコイア並木と祈り道」
(上級:68.6km)

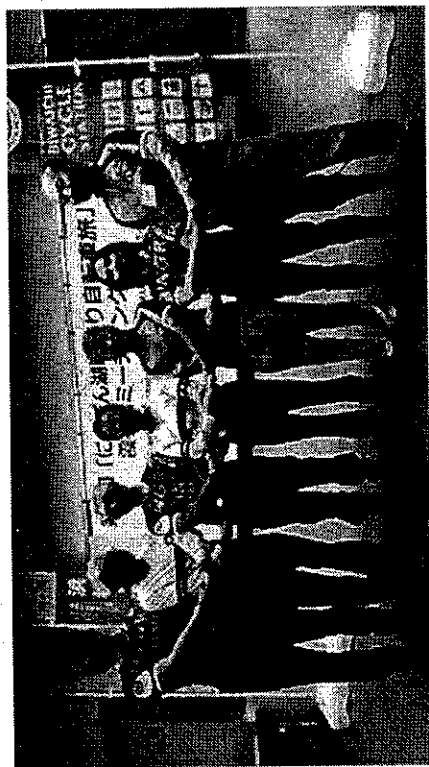


5. ブランドイメージの「広がり」を構築②



○他地域との連携、びわ湖環境保全や「健康しが」との連携

「ビワイチ」と他地域が連携した発信を行うほか、「環境保全」への意識醸成や自然とのふれあいを推進するとともに、「健康しが」と連携し、サイクリングの魅力を発信する。



湖沼を活用したサイクルツーリズムの推進に向けた三湖連携（霞ヶ浦、浜名湖、琵琶湖）



世界湖沼会議での三湖連携研究発表(予定)
「水辺空間の活用と保全」



健康しが日本一フェスタでの発信

6. これまでの成果と今後の方向性



これまでの成果

- ビワイチ体験者数
(H27)約5.2万人 (H28)約7.2万人 (H29)約9.5万人 ⇒ (H32目標) 約16.5万人
- サイクルサポートステーションの設置数
(H28)132箇所 (H29)283箇所 ※(H29目標)200箇所
- ビワイチロゴマークの活用 (ビワイチグッズ等) (H30.7まで)累計32点 ※(H30目標)累計30点
- ビワイチサイクリングアプリ ダウンロード数 (H30目標)10,000DL

「ビワイチ」の盛り上がり



サイクリングブランド
「ビワイチ」のブランド強化



更なる地域活性化

更なる来訪者増加
民間事業者の参入

